

## はじめに

本報告書は、平成15年度に社団法人海外環境協力センターが実施した、環境省請負業務「21世紀初頭における環境・開発統合支援戦略策定(国別調査)」により、中国における循環経済の建設に関して、日中友好環境保全センターの協力を得て行った調査研究成果を取りまとめたものである。

中国ではこの10年来毎年7%を超える高い経済成長を続ける一方で、公害対策の強化により環境の悪化の趨勢を押さえ込んでいるが、その経済成長の基本構造は資源投入による成長であり、「成長=汚染排出の増加」の発展モデルであった。リオサミットで提唱された持続可能な発展(開発)の道を中国政府は中国の国情にあわせて探るべく検討を深めていたが、WSSDを経た現在、「循環経済」を手段とした「生態都市建設」が今後進むべき道として、中央政府、地方政府、学界、産業界等がそろって目下具体的な取組方法を模索しているところである。

本調査においては、21世紀前半における中国の持続可能な発展戦略として位置づけられようとしている「循環経済型生態都市建設」戦略について、1)その基本思想と発展の方向性、2)中央政府、地方政府、学界等における取組状況、および3)先行的取組事例の研究、等を調査するとともに、今後この分野における日本の協力の可能性について分析・提言するものである。

本調査研究は、中国国家環境保護総局日中協力プロジェクト事務局日本側代表として、国際協力機構専門家として派遣されている小柳秀明氏の全面的な協力の下に、日中友好環境保全センター内に研究チームを結成して行われた。

本報告書が、日本の中国に対する今後の支援等を考える上での一助となり、また、今後の日中関係の更なる発展に資するものとなれば幸いである。

平成16年3月

社団法人 海外環境協力センター

理事長 森 仁 美